

蘇花公路

金子秀俊

ここに一葉の写真がある

中央の籐椅子に和服姿の父が掛け

赤子のわたしを抱いている

左に これも和服姿の母が立っている

右には 小学校を卒業して間もないと思われる

台湾乙女のお手伝いさん

台北州庁の役人であった父は

その頃 宜蘭ギランの郡役所に勤めていた

この写真が撮られたのは一九三五年の 春まだ浅い頃と考えられる

一九三二年に 蘇花公路は開通した

蘇花公路とは 蘇澳スiaoから花連ホワリエンまで およそ九十六キロの自動車道をいう

台湾東岸は千メートル以上の岸壁が垂直に屹立する断崖である

断崖を切り拓いた道路 これが蘇花公路である

和平ホーピンから崇徳チヨンテまでの二十キロは断崖の道をゆく

かつて 父から聞いたことがある

この公路を行くバスの運転手は 朝 出発の前に体調を調べられると

わたしと妻とは一九七一年から二年間

高雄カオシヨウの日本人学校に奉職した

この蘇花公路を通ったのは

一九七二年の冬である

この公路 道幅狭く 離合できない

宜蘭で離合する

南に向かう車列がすべて到着すると

北に向かう車列がすべて到着するのを待つ

その後で おもむろに 南へ北へと向かうのである

妻とわたしは 早朝に 北の港町基隆キリンを発って

蘇花公路を通って南の花連へと向かった

茫洋ぼうようとして眼下にひろがる太平洋

セピア色した写真を見る

赤子であつた宜蘭のあの日

蘇花公路

八十七年を経た

第二次世界大戦　そして　敗戦　台湾からの引き揚げ

混乱の中で父母が持ち帰った小さな写真一葉

そこに込められた若き日の父母の思いに心を致す

(注) 蘇花公路——二〇一一年から高速道路の建設が始まり、南澳—和平、和中—大清水間も二〇二〇年一月五日に開通した。現在は蘇澳と花蓮間の路線バスも運行している。